

印旛普及だより

第 45 号

〒285-0026 佐倉市鎗木仲田町8-1 TEL：043-483-1128 FAX：043-485-9502
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-inba/inba/mokuji/index.html>
発行：千葉県印旛農業事務所改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

「富里すいか」の未来の生産者を求めて 「富里すいか産地体験会」を開催

「富里すいか」の現状

富里市は全国有数のスイカ産地です。しかし、生産者の高齢化が進み、作付面積は年々減少しています。一方で全国的にスイカの供給量が減少しているため、スイカの販売単価は年々上昇しています。

産地体験会開催までの経緯

富里市では、スイカ生産者に対する支援制度がありますが、これまで新規にスイカを生産される方を育成する事業はありませんでした。

そこで、富里市農業指導連絡協議会において、他県の新規就農者募集についての優良事例を参考に、令和6年度事業として新規就農希望者を対象にした「富里すいか産地体験会」を開

催しました。

体験会は、富里市でスイカの新規就農者となってもらうために、まず「産地に来て、見て、知ってもらう場所づくり」を目的としJA富里市西瓜部、丸朝園芸農業協同組合西瓜部の協力を得て開催しました。

産地体験会の開催

令和6年度は半促成スイカ、抑制スイカの2作で、それぞれの作の交配等の管理作業体験会と収穫体験会を合計4回開催しました。

スイカの栽培試験などを実施している富里市農林業センターを会場として、実際の作業を体験してもらい、スイカ生産者との交流を中心に生産者ほ場も見学しました。

併せて産地やスイカの生産概要、新規就農に向けた支援制度等についても説明しました。

今後について

参加者の1人から「富里市で就農してスイカを生産することを前向きに考えていきたい」旨の意向があり、その後富里市の生産者にて研修する動きも見られました。

これらを受け、協議会としては、令和7年度も継続して産地体験会を開催する予定です。



スイカ交配とつる引きの作業体験

トマト・スイカにおける コナジラミ類防除

令和6年は、暖冬の影響により生育初期からウイルスを媒介するコナジラミ類の発生が多く「トマト黄化葉巻病」が多発しました。さらに8月にはトマト黄化葉巻病と同様にコナジラミ類がウイルスを媒介する「スイカ退緑えそ病」が本県で初めて確認されました。一方、育苗ハウス及び本ぼにおける防虫ネットの展張や生育初期における薬剤散布を徹底したトマトほ場では、コナジラミ類の密度が低く、トマト黄化葉巻病の発生が抑えられました。基本的な対策の徹底をしましょう。

【基本的なコナジラミ類対策】

① 入れない

育苗ハウス及び本ぼの開口部に目合い0.4mmの防虫ネットを展張する。

ネットに破損や隙間がないか

事前に点検、あれば補修する。
② 増やさない

生育初期は5日ほどの短い間隔で系統が異なる薬剤を選択してローテーション散布する。

③ 出さない

栽培終了後は、株を切断して枯死させ、十分に蒸し込みをする。

④ 繋がらない（前作から）

リセットして作をスタート！



微細防虫ネットの展張

千葉県病害虫予察情報はインターネットでご覧いただけます。



花き生産者経営改善研修会 を開催しました

印旛地域では多様な花き品目が栽培されていますが、長期的な需要低下、資材や燃料費の高騰、夏季の高温等により経営が厳しくなっています。

そこで、所得向上に向けた対策を検討することを目的に視察研修を開催しました。

東京都農林総合研究センターでは、暑熱対策や労力軽減対策の技術を視察しました。暑熱対策としては、① ネット&ファン、② ベンチ下ミストを見学しました。① ② いずれもハウス妻面の換気扇から排気し、気化熱によってハウス内の温度を下げる技術で、体感でも外気より涼しく感じられました。

また、鉢物や苗物栽培で使用する既存のベンチを活用し、ベンチ上のポットで切花を栽培する技術も見学しました。屈み作



ベンチを活用したポットでの切花栽培とベンチ下ミスト

業がなくなり労力軽減につながる他、既存設備を活用しながら栽培品物の転換や拡大が図れるもので、参加者も興味深く見学していました。

併せて、東京都西多摩郡瑞穂町の通称シクラメン街道沿いで、直売中心でシクラメンを販売している生産者を視察し、近年の販売状況や販売における工夫について意見交換をしました。

落花生の白絹病に注意！

令和6年は8月～9月にかけて高温多湿となり、白絹病の発生が多くなりました。白絹病は株元やその周りに絹糸のような白いカビが発生し、やがて株が枯死する病気です。発病株を見したら 表土と一緒にほ場から持ち出し、まん延防止に努めましょう。

発病の予防には、①輪作の実施、②土壌pHの調整、③薬剤防除の3つの対策があります。

①輪作の実施

白絹病は、土壌伝染性の病害です。連作すると土壌中の白絹病菌が増え、発生が助長されます。そのため、対策として白絹病菌に感染しにくいイネ科作物の輪作が有効です。

②土壌pHの調整

白絹病は土壌のpHが低いと発生しやすいため、ほ場に苦土石

灰等を施用し、pH 6.0～6.5となるよう調整しましょう。

③薬剤防除

発生予防のため、フロンスайд粉剤（使用量10aあたり20kg、収穫45日前まで1回使用可）、アフェットフロアブル（希釈倍数200倍、散布液量10aあたり100～300ℓ、収穫前日まで3回以内使用可）を散布しましょう。マルチを剥がし、中耕培土した際に散布しましょう。

令和6年に発生したほ場では、令和7年に向けた対策を心掛けましょう。



白絹病で枯死した落花生の株

畜舎の暑熱対策が重要！ 早めに暑熱対策を行いましょう

近年は、6月下旬から10月上旬ごろまで真夏日や猛暑日が続いています。

これまでとは異なる災害レベルの暑さは、作業する人の熱中症も危ぶまれますが、それは家畜も同じです。

大家畜の適温は約5～20℃、中小家畜は約10～25℃とされています。

近年は、家畜にとって非常に厳しい気候であり、事故も増加する可能性があります。

そこで暑熱対策に、より一層力を入れる必要があります。ここでは、暑熱対策の事例を紹介します。

「送風」

送風は、風を直接体に当てることで汗やミストなどの水分の気化を促進し、家畜の体感温度を下げるができます。

乳牛では風速1m/秒で6℃、

体感温度を下げるができます。牛において最も冷却効果が高い部分は胸部であるため、胸元に風を向けるように調整することで、大きな効果を見込めます。



牛舎に設置された送風機

「細霧」

牛における水の細霧散布は冷却効果が高く、導入することで牛体周辺の気温を約5℃下げることができます。

畜舎や家畜の健康状態を見て早めに暑熱対策を行いましょう。

「みどり認定」を受けてみませんか？

農業は、地球温暖化による気候変動などの影響を受けやすい産業です。また、農業自体も、燃料の燃焼による温室効果ガスの発生や化学農薬による生物多様性の低下といった環境負荷を生じさせている側面もあります。

令和4年に、このような環境負荷を低減し持続可能な農業の実現に向けて、「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（みどりの食料システム法）」が施行されました。

本法律に基づき、環境負荷低減に取り組む農業者が作成した計画を知事が認定する制度が「みどり認定」です。

個人又は、同じ品目や取組を行うJ Aの生産部会等、グループでの申請が可能です。

取組の例（取組は1つでも可）

農林水産大臣が
定めている事業活動

バイオ炭の施用

プラスチックの削減

水田の冬季湛水

家畜ふん尿中NPの
環境負荷低減

など

温室効果ガスの
排出量の削減

施設栽培における
省エネ機器や
施設、設備の導入

水田の秋耕

作業効率化を可能とする
スマート農機の導入

など

土づくり、化学肥料、
化学農薬の使用量低減

有機農業の取組※

ちばエコ農業の取組※

特別栽培農産物の取組

土づくり+化学肥料&
化学農薬の使用低減の取組

土壌診断が必要

※有機JASやちばエコの認証は不要

既に認定対象の取組を実施し

ている場合は、現状維持の目標

を掲げる計画でも認定可能です。

※新たな設備等の導入を伴う場合は除く。

令和6年10月末現在、印旛地域では、8件認定されています。



堆肥の散布



水田の秋耕

○「認定」を受けるメリット

①計画に従って、化学肥料・化学農薬の使用低減に必要となる設備等を導入した場合、所得税、法人税が優遇されます

税制対象の
設備等一覧は
こちら



②融資の特例（日本政策金融公庫の無利子資金等）が活用できます。

③さまざまな国庫補助金の採択で優遇されます。

※対象事業の例…みどりの食料システム戦略推進交付金、強い農業づくり総合支援交付金など

対象事業は
こちら



○認定の手続き

農業事務所で書類を入手、または県ホームページからダウンロードし、5年間の実施計画書を作成します。

千葉県
ホームページは
こちら



作成したら、農業事務所企画振興課へ提出ください。

認定委員会において、適正であると認められた場合は、申請者に認定書を送付します。

問い合わせ先（企画振興課）
☎043(483)1129

「あきづき」、「王秋」の 果肉障害対策について

ニホンナシ「あきづき」と「王秋」は農業・食品産業技術総合研究機構（通称…農研機構）が育成した品種で、印旛地域でも栽培面積が拡大しています。

しかし、栽培の拡大に伴って数年前からコルク状果肉障害の発生が問題となっています。

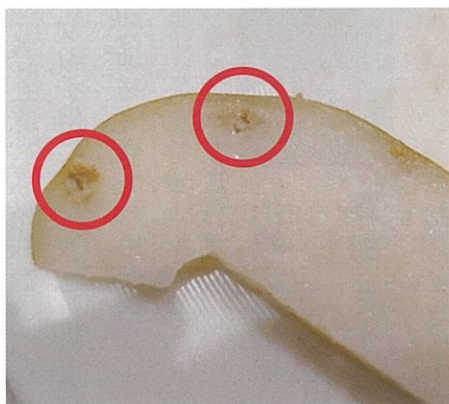
コルク状果肉障害は、維管束部分にコルク状の褐色えそ斑点を生じ、大きい場合には中空となります。果皮直下に発生した場合には果面に凹みを生じます。

コルク状果肉障害の発生については、過度な果実肥大、摘果遅れ、徒長枝が乱立するような強樹勢、7～9月にかけての高温乾燥など、複数の要因によって助長されることが報告されています。

農研機構の報告によると、「あきづき」や「王秋」での発生を

抑えるためには、まずは、土壌改良や水分管理、樹勢維持といった基本的な管理が重要であることが明らかになっています。

これらの管理を行い、果肉障害が発生しにくい状態を保った上で、早期の摘蕾や粗摘果（交配15日後）で着果数を早めに制限します。また、収穫が遅れると果肉障害の発生が多くなる傾向があるので、適期に収穫しましょう。複数の対策を組み合わせることで果肉障害の低減を図りましょう。



コルク状果肉障害

若手農業者の皆さんへ 印旛農業経営体育成セミナーに参加しませんか！

農業事務所では、就農して間もない若手農業者を対象として、農業経営体育成セミナーを開催しています。

当セミナーは農業経営に必要な知識、技術、課題解決方法、経営計画の策定方法などを習得するとともに、セミナーを通じた仲間作りも目的としています。3年間の研修カリキュラムで研修終了時には認定農業者の経営改善計画を自力で策定できるような力を身につけることが目標です。

令和6年度は基本研修（1年目）15名、専門研修（2年目）16名、総合研修（3年目）14名の計45名が参加しています。

1年目は、生産技術に関する基礎知識の習得と、地域農業を知ることが主な目的として研修を行います。2年目は、研修生

が自ら設定した課題を解決するプロジェクト学習を中心とした実践的な研修を行います。3年目は、経営者の視点で営農計画を作成し、経営の将来をデザインする研修を行います。いずれも、研修生同士が互いの経営を学び合う相互訪問を取り入れ、意見交換を積極的に行える内容にしています。

興味関心のある方は、改良普及課まで問い合わせください。



セミナー生の相互訪問

新しい指導農業者と 農業者が認証されました

印旛地域の令和6年度農業者等認証者として指導農業者2名、農業者4名が新たに認証されましたので御紹介します。

【指導農業者（2名）】



古谷 長武 氏
(八街市)
露地野菜＋施設野菜

ニンジン・スイカ・サトイモ・落花生といった地域を代表する野菜経営を行っています。
麦作との輪作や土づくりにも力を入れ、品質の高い野菜作りを進めています。



古谷 千穂 氏
(八街市)
露地野菜＋施設野菜

主力野菜に加え、農産物加工やアスパラガス栽培にも取り組んでいます。

ひと味、ふた味おいしい、自分の子供に食べさせたい農産物生産を心掛けています。

【農業者（4名）】



川嶋 寛信 氏
(成田市)
露地野菜＋水稲

サツマイモを主力とした多品目の野菜を、有機JAS認証に準じた栽培で生産しています。
同一ほ場に年1作を基本とし、緑肥を組み合わせることで、持続可能な農業を実践しています。



中込 靖倫 氏
(八街市)
露地野菜

落花生、シヨウガ、ニンジンなど根菜類を中心に栽培しています。

自家農園のロゴマークを作成し、落花生、シヨウガを使った加工品の商品を開発することに

よって、農園のブランド化に繋げ、販路を開拓しています。



篠田 拓也 氏
(栄町)
水稲＋露地野菜

水稲と露地野菜の複合経営を行う農業法人で、水稲の経営規模拡大に取り組み地域の主要な担い手です。

併せて、新たな収益確保に向け、秋冬ネギや黒大豆を導入するなど経営改善に取り組んでいます。



小川 熙 氏
(栄町)
施設・露地野菜＋水稲

施設野菜、露地野菜、水稲の複合経営により、年間を通して収益を確保しています。

施設トマトでは、養液栽培や環境制御に取り組み、高収量、高品質を達成しています。

農業者協会印旛支部の活動 県外視察研修を開催しました

令和6年10月17～18日に約3年ぶりに県外視察研修を開催し、新潟県の培土メーカー、砂丘さつまいも「いもジェンヌ」産地であるJA新潟かがやきを視察しました。参加者からは、「工場見学やブランド化の取り組みなど貴重な情報が多く刺激になった。」「1泊の研修は久しぶりで、会員間の交流が深まり参加でき良かった。」等の意見が出されました。今後も、会員間の交流促進と経営者能力向上の機会を作っていきます。



培土メーカーの工場視察